

まとめあげたことは、議論の余地があるものと考えられる。一方、上述の通り改正薬事法施行後に一般用漢方処方箋は薬剤師や登録販売者による適切な情報提供のもとに販売されることになる。旧基準に関しては、その趣旨の徹底及び安全な治療の推進を目的として、旧基準の内容に処方解説及び参考文献情報等を加えた「一般用漢方処方箋の手引き」が出版されている。今後、新基準が発出されるにあたり、新基準の内容に準拠して旧手引きの改訂も進められており、近く「改訂 一般用漢方処方箋の手引き」が出版される予定である。本書には表6に示した体力分布表が収載されることになっている。一般用漢方処方箋の販売に携わる薬剤師及び登録販売者においては、「改訂 一般用漢方処方箋の手引き」等を参考の上、適切な判断と情報提供のもとに販売されることを期待する。

E. 結論

一般用漢方処方箋に関する新基準発出に至る経緯を整理して記述した。今回の新基準は旧基準210 処方箋の見直しに相当するものであるが、今後「新一般用漢方処方箋の手引き案」に新規収載を提案した新規処方箋が行政的に検討され、新基準に追加収載されることを望む。また、これら新規処方箋を含む漢方処方箋製剤が市場に新たに流通することにより、一般用漢方処方箋を用いたセルフメディケーションが、国民の健康の増進及び維持に貢献することを期待する。

F. 研究発表

1. 学会発表

該当無し

2. 誌上発表

該当無し

G. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

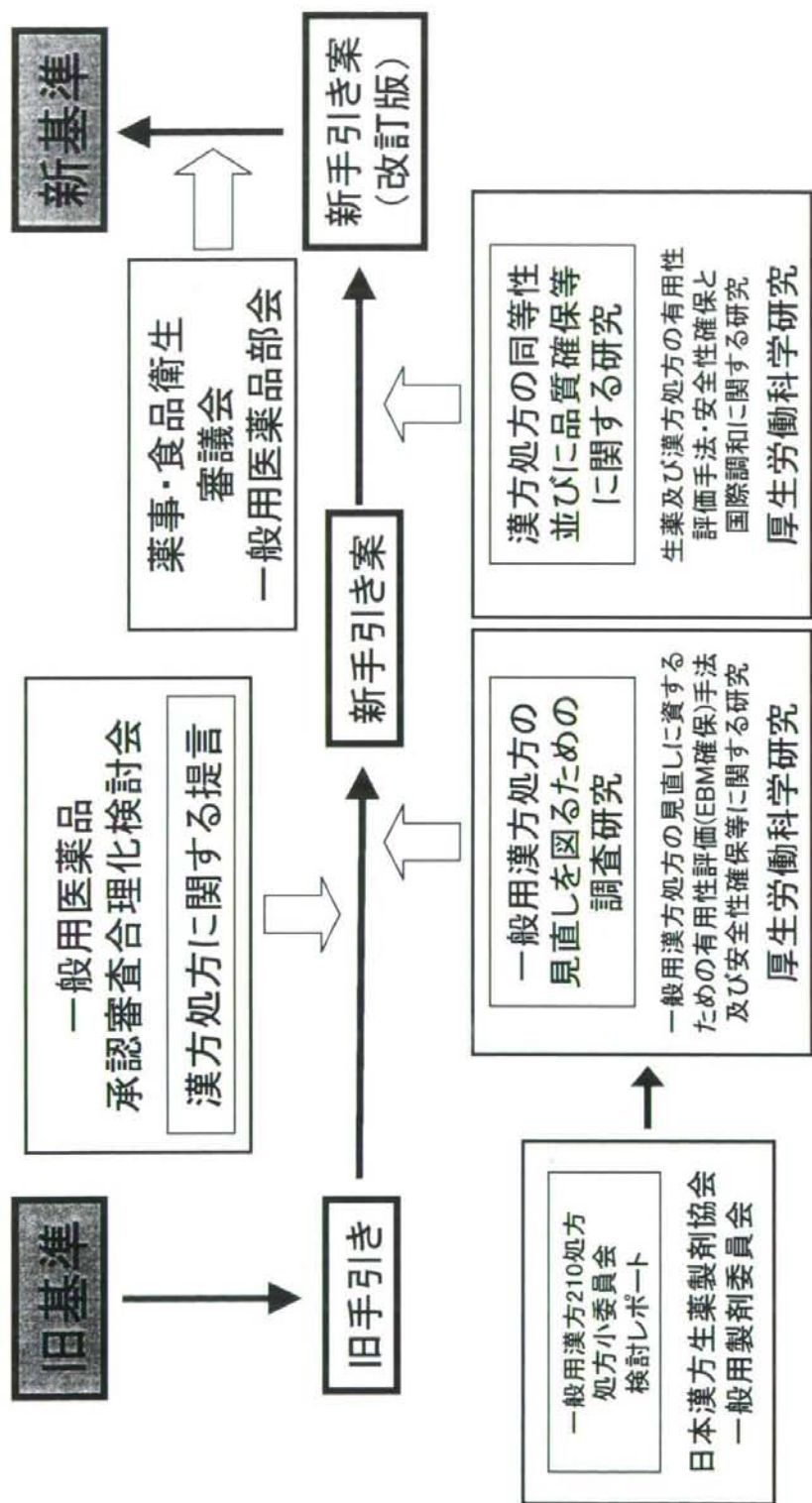


図1 「一般用漢方製剤承認基準の制定について」発出までの流れ

表1 旧210処方の見直し案における一律に変換すべき効能・効果の表現

	変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	備考
一律変換①	こしけ	こしけ(おりもの)	患者にとって一般的ではない用語の説明
	湿疹	湿疹・皮膚炎	
一律変換②	皮膚炎		湿疹、皮膚炎は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
	急性湿疹		
	慢性湿疹		
一律変換③	血の道症	血の道症(月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状)	患者にとって一般的ではない用語の説明
一律変換④	皮膚のかゆみ	湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ	皮膚のかゆみは、湿疹・皮膚炎の三大徴候の一つであることから、病態に基づき、湿疹・皮膚炎の追加を提案する。
一律変換⑤	あかばな	あかばな(酒さ)	漢方用語での補足説明。医療機関での説明を受けられている方は、「酒さ」という病名を理解できると考えられます。
一律変換⑥	しみ	しみ(肝斑)	「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないもの、おそらく、肝斑についてのものが多くいように思われます。
一律変換⑦	しぶり腹	しぶり腹(残便感があり、繰り返し腹痛を伴う便意を催すもの)	患者にとって一般的ではない用語の説明
一律変換⑧	ふきでもの	ふきでもの(にきび)	近年、ふきでものという表現が一般的でなくなり、にきびのほうがわかりやすいと思われました。
一律変換⑨	蓄膿症	蓄膿症(副鼻腔炎)	補足説明
一律変換⑩	小児疝症	小児疝症(神経過敏)	患者にとって一般的ではない用語の説明

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
1	安中散	体中等度以下から虚弱で腰部筋肉が弛緩する傾向にあり、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、はきけなどを伴うものの次の諸症	体力中等度以下から虚弱で腰部は力がなくて、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、はきけなどを伴うものの次の諸症	
1	安中散加茯苓	体力中等度以下から虚弱で腰部筋肉が弛緩する傾向にあり、神経過敏で胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけ、げっぷ、食欲不振、はきけなどを伴うものの次の諸症	体力中等度以下から虚弱で腰部は力がなくて、神経過敏で胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、はきけ、嘔吐などを伴うものの次の諸症	
4	茵陳蒿湯	皮膚のかゆみ	湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ	一律変換④ 「皮膚のかゆみ」は、湿疹・皮膚炎の三大徴候の一つであることから、病態に基づき、「湿疹・皮膚炎」の追加を提案する。本処方では皮膚のかゆみに有用のみならず、その抗炎症作用から、湿疹・皮膚炎に対しても有効であることが知られ、報告も蓄積されています。
6	温経湯	こしけ（おりもの異常） 湿疹	こしけ（おりもの） 湿疹・皮膚炎	一律変換① 一般的ではない用語の説明 一律変換② 「湿疹・皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
7	温清飲	指先のあれ 血の遺症	手あれ（手の湿疹・皮膚炎） 血の遺症（※） ※血の遺症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	進行性指掌角皮症の一般向けの表現と思われませんが、その症状はかならずしも指先に限局せず、手の湿疹の範囲に含まれます。 一律変換③ 一般的ではない用語の説明

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
		体力中等度で皮膚の色つやが悪く、のぼせるものの次の諸症	体力中等度で皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの次の諸症	平易な表現へ変更
		皮膚炎	湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
		湿疹	湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
10	黄耆建中湯	皮膚のびらん	皮膚のただれ	びらんは専門用語で、一般のかたにはわかりにくい可能性があるため、変更案を提示させていただきました。
13	黄連阿膠湯	かさかさした皮膚のかゆみ	かさかさした湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ	一律変換④ 「皮膚のかゆみ」は、湿疹・皮膚炎の三大徴候の一つであることから、病題に基づき、「湿疹・皮膚炎」の追加を提案する。本処方では皮膚のかゆみに有用のみならず、その抗炎症作用から、湿疹・皮膚炎に対しても有効であることが知られ、報告も蓄積されています。
		皮膚のかゆみ	湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ	一律変換④ 「皮膚のかゆみ」は、湿疹・皮膚炎の三大徴候の一つであることから、病題に基づき、「湿疹・皮膚炎」の追加を提案する。本処方では皮膚のかゆみに有用のみならず、その抗炎症作用から、湿疹・皮膚炎に対しても有効であることが知られ、報告も蓄積されています。
14	黄連解毒湯	血の遺症	血の遺症（※） ※血の遺症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	一律変換③ 一般的ではない用語の説明

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
20	葛根紅花湯	あかはな しみ	あかはな (酒さ) しみ (肝斑等)	一律変換⑤ 漢方用語での補足説明。医療機関での説明を受けられている方は、「酒さ」という病名を理解できると考えられます。 一律変換⑥ 「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないものの、おそらく、肝斑についてのものが多いように思われます。
22	葛根湯加川芎辛夷	蓄膿症	蓄膿症 (副鼻腔炎)	一律変換⑨ 補足説明
26	加味逍遙散	血の道症	血の道症 (※) ※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、(効能・効果に関連する注意)として記載する。)	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
27	加味逍遙散加川芎地黄 (加味逍遙散合四物湯)	湿疹	湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混用をさけるため方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきました。
		しみ	しみ (肝斑等)	一律変換⑥ 「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないものの、おそらく、肝斑についてのものが多いように思われます。

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
		血の道症	<p>血の道症（※）</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>一律変換③ 一般的ではない用語の説明</p>
31	甘草湯	<p>体力に関わらず、広く応用できる</p> <p>激しいせき、口内炎、しわがれ声 外用：痔・脱肛の痛み</p>	<p>【体力に関わらず、使用できる※】 激しいせき、口内炎、しわがれ声 外用：痔・脱肛の痛み</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>体力に関わらず使用でき、それ以外のしぼりのない処方の表現の統一</p>
33	桔梗湯	<p>体力に関わらず広く応用できる。のどがはれて痛み、ときにせきがでるもの次の諸症</p>	<p>体力に関わらず使用でき、のどがはれて痛み、ときにせきがでるもの次の諸症</p>	<p>体力に関わらず使用できる処方の表現の統一</p>
34	燔書建中湯	<p>湿疹</p>	<p>湿疹・皮膚炎</p>	<p>一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきました。</p>
36	響声破苗丸	<p>（しぼりなし）</p> <p>しわがれ声、咽喉不快</p>	<p>【体力に関わらず、使用できる※】 しわがれ声、咽喉不快</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>しぼりなしの処方の表現の統一</p>
37	芍药膠艾湯	<p>月経異常・不正出血</p>	<p>月経異常・月経過多・不正出血</p>	<p>月経過多の効能・効果を復活させる。月経過多を効能・効果とする文献は存在する。以前、処方検討会において、月経過多が月経異常に含まれるものとして削除した。</p>

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
39	芍薬調血軟第一加減	血の道症、月経不順、産後の体力低下	血の道症（※） ※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである （※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
42	駆風解毒散（湯）	体力に関わらず、のどがはれて痛むものの次の諸症	体力に関わらず使用でき、のどがはれて痛むものの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方の表現の統一
43	荊芥連翹湯	蓄膿症	蓄膿症（副鼻腔炎）	一律変換⑨ 補足説明
46	桂枝加黄耆湯	皮膚炎	湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきました。
50	桂枝加芍薬大黄湯	しぶり腹	しぶり腹（※） ※しぶり腹とは、残便感があり、くり返し腹痛を伴う便意を催すものことである （※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）	一律変換⑦ 一般的ではない用語の説明
51	桂枝加芍薬湯	しぶり腹	しぶり腹（※） ※しぶり腹とは、残便感があり、くり返し腹痛を伴う便意を催すものことである （※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）	一律変換⑦ 一般的ではない用語の説明

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
52	桂枝加朮附湯	体力虚弱で、汗が出、手足がこわばり、ときに尿量が少ないものの次の諸症	体力虚弱で、汗が出、手足が冷えてこわばり、ときに尿量が少ないものの次の諸症	
53	桂枝加芍朮附湯	体力虚弱で、手足がこわばり、尿量が少ないものの次の諸症	体力虚弱で、手足が冷えてこわばり、尿量が少なく、ときに、動悸、めまい、筋肉のびくつきがあるものの次の諸症	
54	桂枝加竜骨牡蛎湯	体力虚弱で疲れやすく、興奮しやすいものの次の諸症	体力虚弱で疲れやすく、神経過敏で、興奮しやすいものの次の諸症	
		湿疹	湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
56	桂枝茯苓丸	しみ	しみ（肝斑等）	一律変換⑥ 「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないもの、おそらく、肝斑についてのものが多いように思われます。
		血の道症	血の道症（※） ※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、(効能・効果に関連する注意)として記載する。)	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
		しみ	しみ（肝斑等）	一律変換⑥ 「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないもの、おそらく、肝斑についてのものが多いように思われます。
		手足のあれ	手足のあれ（手足の湿疹・皮膚炎）	

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
57	桂枝茯苓丸料加薑苧仁	血の道症	<p>血の道症（※）</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>一律変換③ 一般的ではない用語の説明</p>
59	荆防敗毒散	湿疹	<p>湿疹・皮膚炎</p>	<p>一律変換② 「湿疹・皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。</p>
63	甲字湯	しみ	<p>しみ（肝斑等）</p>	<p>一律変換⑥ 「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないもの、おそらく、肝斑についてのものが多いように思われます。</p>
		血の道症	<p>血の道症（※）</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>一律変換③ 一般的ではない用語の説明</p>

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぶり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
68	香薷散	血の道症	<p>血の道症（※）</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
72	呉茱萸湯	体力虚弱で気分がすぐれず胃腸の弱いもの次の諸症	体力虚弱で神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもの次の諸症	
74	五物解毒散	体力中等度以下から虚弱で手足が冷えて、ときにみぞおちが膨満するもの次の諸症	<p>体力中等度以下から虚弱で手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するもの次の諸症</p> <p>湿疹・皮膚炎</p>	<p>一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。</p>
76	五苓散	<p>体力に無関係に広く応用できる。のどが潤いて尿量が少ないもので、目まい、はきけ、嘔吐、腹痛、頭痛、むくみなどのいずれかを伴う次の諸症</p> <p>しぶり腹</p>	<p>体力に關わらず使用でき、のどが潤いて尿量が少ないもので、目まい、はきけ、嘔吐、腹痛、頭痛、むくみなどのいずれかを伴う次の諸症</p> <p>しぶり腹（※）</p> <p>※しぶり腹とは、残便感があり、くり返し腹痛を伴う便意を催すものである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>体力に關わらず使用できる処方の表現の統一</p> <p>一律変換⑦ 一般的ではない用語の説明</p>

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
79	柴胡桂枝乾姜湯	<p>血の道症</p> <p>体力中等度以下から虚弱で、冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸、息切れがあるものの次の諸症</p> <p>体力中等度で、かんの強い傾向にあるものの次の諸症</p>	<p>血の道症（※）</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>一律変換③ 一般的ではない用語の説明</p>
81	柴胡清肝湯	<p>湿疹</p> <p>体力中等度で、かんの強い傾向にあるものの次の諸症</p>	<p>湿疹・皮膚炎</p>	<p>一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。</p>
85	三黄瀉心湯	<p>血の道症</p>	<p>血の道症（※）</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	<p>一律変換③ 一般的ではない用語の説明</p>

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
86	三黄散	血の道症	<p>血の道症（※）</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>（※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。）</p>	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
87	三物黄芩湯	湿疹	湿疹・皮膚炎	<p>一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。</p>
88	滋陰降火湯	手のひら・足の裏のあれ	手足のあれ（手足の湿疹・皮膚炎）	手のひら、足の裏にかならずしも限局しないため、手足のあれ という表現案を提示させていただきました。
90	紫雲膏	乾燥	乾燥	乾燥は一般的ではないと思います
95	響声破苗丸	かふれ (しばりなし) しゃっくり	<p>湿疹・皮膚炎</p> <p>【体力に関わらず、使用できる※】 しゃっくり</p> <p>(※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)</p>	その効果は接触皮膚炎に限らず、他の湿疹・皮膚炎にも有用例がみられるため、表現の変更案を提示させていただきました。

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
		しみ	しみ (肝斑等)	一律変換⑥ 「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないものの、おそらく、肝斑についてのものが多いように思われます。
		乾燥	乾燥	乾燥は一般的ではないと思います
96	四物湯	血の道症	血の道症 (※) ※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、(効能・効果に関連する注意)として記載する。)	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
97	四苓湯	体力に関わらず広く応用できる。のどが渴いて水を飲んでも尿量が少なく、はきけ、嘔吐、腹痛、むくみなどのいずれかを伴う次の諸症	体力に関わらず使用でき、のどが渴いて水を飲んでも尿量が少なく、はきけ、嘔吐、腹痛、むくみなどのいずれかを伴う次の諸症	体力に関わらず使用できる処方表現の統一
99	鱈舘菜湯 (三味鱈舘菜湯)	体力に関わらず、広く応用できる 回虫の駆除	【体力に関わらず、使用できる※】 回虫の駆除 (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、(効能・効果に関連する注意)として記載する。)	体力に関わらず使用でき、それ以外のしぼりの表現の統一
100	芍薬甘草湯	体力に関わらず、筋肉の急激なけいれんを伴う痛みのあるもの次の諸症	体力に関わらず使用でき、筋肉の急激なけいれんを伴う痛みのあるもの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方表現の統一

表2 旧210処方に見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
103	十味敗毒湯	急性湿疹	湿疹・皮膚炎	一律変換②「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
104	潤腸湯	体力中等度あるいは中等度以下で、ときに皮膚乾燥などがあるものの次の症状 乾燥	体力中等度あるいはそれ以下で、ときに皮膚乾燥などがあるものの次の症状 乾燥	乾燥は一般的ではないと思います
105	蒸眼一方	(しぼりなし) ものもらい、ただれ目、はやり目	【体力に関わらず、使用できる※】ものもらい、ただれ目、はやり目 (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	しぼりなしの処方の表現の統一
108	柴朴湯	体力中等度で、気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、ときに動悸、目まい、嘔気などを伴うものの次の諸症	体力中等度で、気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、かぜまひまややく、ときに動悸、目まい、嘔気などを伴うものの次の諸症	
109	小柴胡湯	体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振で口が苦く、舌に白苔がつくもの次の諸症	体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくもの次の諸症	
110	小柴胡湯加桔梗石膏	体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振で口が苦く、舌に白苔がつき、のどがはれて痛むもの次の諸症	体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつき、のどがはれて痛むもの次の諸症	
115	小半夏加茯苓湯	体力に関わらず、悪心があり、ときに嘔吐するもの次の諸症	体力に関わらず使用でき、悪心があり、ときに嘔吐するもの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方の表現の統一

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しぼり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
116	升麻葛根湯	皮膚炎	湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
117	椒梅湯	体力に関わらず用いる。	【体力に関わらず、使用できる※】 回虫の駆除	体力に関わらず使用でき、それ以外のしぼりのない処方方の表現の統一
		回虫の駆除	(※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	
118	消風散	皮膚炎、慢性湿疹	湿疹・皮膚炎	その効果は慢性湿疹に限らず、他の湿疹・皮膚炎にも有用例がみられるため、表現の変更案を提示させていただきます。
119	逍遙散 (八味逍遙散)	血の道症	血の道症 (※)	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
			※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	
120	辛夷清肺湯	蓄膿症	蓄膿症 (副鼻腔炎)	一律変換③ 補足説明
126	清肌安蛔湯	体力中等度で、ときに脇腹(腹)からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振で口が苦く、舌に白苔がつくもの次の諸症	体力中等度で、ときに脇腹(腹)からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくもの次の諸症	
		蛔虫	回虫	
129	清上瀉痛湯 (聖風船痛湯)	体力に関わらず、慢性化した痛みのあるもの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方方の表現の統一	

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
130	清上防風湯	あかはな	あかはな (酒さ)	一律変換⑤ 漢方用語での補足説明。医療機関での説明を受けられている方は、「酒さ」という病名を理解できると考えられます。
		顔面・頭部の湿疹	顔面・頭部の湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
131	清心蓮子飲	こしけ	こしけ (おりもの)	一律変換① 一般的ではない用語の説明
		体力に関わらず、頭痛があるもの次の諸症	体力に関わらず使用でき、頭痛があるもの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方の表現の統一
134	川芎茶調散	血の道症	血の道症 (※) ※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
		体力に関わらず広く応用される。	【体力に関わらず、使用できる※】 打撲のはれと痛み (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	体力に関わらず使用でき、それ以外のしばりのない処方の表現の統一
135	千金鐘鳴散	打撲のはれと痛み	打撲のはれと痛み	
		体力に関わらず広く応用される。	【体力に関わらず、使用できる※】 便秘、便秘に伴う頭痛・のぼせ・湿疹・皮膚炎・ふきでもの (にきび)・食欲不振 (食欲減退)・腹部膨満・腸内異常酸酵・痔などの症状の緩和	体力に関わらず使用でき、それ以外のしばりのない処方の表現の統一

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案 (※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)	
139	大黃甘草湯	便秘、便秘に伴う頭暈・のぼせ・肌あれ・ふきでもの・食欲不振(食欲減退)、腹部膨満・腸内異常發酵・痔などの症状の緩和	<p>(※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)</p> <p>湿疹・皮膚炎</p> <p>ふきでもの (にきび)</p>	その効果は肌荒れに限らず、他の湿疹・皮膚炎にも有用例がみられるため、表現の変更案を提示させていただきました。
145	治打撲一方	肌あれ	ふきでもの (にきび)	一律変換⑧ 近年、ふきでものという表現が一般的でなくなり、にきびのほうがわかりやすいと思われました。
146	治頭痛一方	体力に関わらず、はれ、痛みがあるもの次の諸症	体力に関わらず使用でき、はれ、痛みがあるもの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方の表現の統一
146	治頭痛一方	湿疹、皮膚炎	湿疹、皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
146	治頭痛一方	乳幼児の湿疹	乳幼児の湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
146	治頭痛一方	湿疹、皮膚炎	湿疹、皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。
146	治頭痛一方	乳幼児の湿疹	乳幼児の湿疹・皮膚炎	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきます。

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
148	調胃承気湯	肌あれ	湿疹・皮膚炎	その効果は肌荒れに限らず、他の湿疹・皮膚炎にも有用例がみられるため、表現の変更案を提示させていただきます。
		ふきでもの	ふきでもの（にきび）	
151	猪苓湯	体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの次の諸症	体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方の表現の統一
152	猪苓湯合四物湯	体力に関わらず、皮膚が乾燥し、色つやが悪く、胃腸障害のない人で、排尿異常があり口が渇くものの次の諸症	体力に関わらず使用でき、皮膚が乾燥し、色つやが悪く、胃腸障害のない人で、排尿異常があり口が渇くものの次の諸症	体力に関わらず使用できる処方の表現の統一
		乾燥	乾燥	乾燥は一般的ではないと思います
		乾燥	乾燥	乾燥は一般的ではないと思います
155	当帰散子	慢性湿疹（分泌物の少ないもの）	湿疹・皮膚炎（分泌物の少ないもの）	一律変換② 「湿疹、皮膚炎」は、臨床型や原因の違いなどにより、種々の病名で表現される一群の疾患であり、お互いに切り離せない関係にあります。混乱をさけるための方法として、湿疹・皮膚炎と包括的に表現する案を提示させていただきました。
160	当帰芍薬散	しみ	しみ（肝斑等）	一律変換⑥ 「しみ」の補足説明。しみには、肝斑をはじめ、老人性色素斑、炎症後色素沈着など様々な疾患が含まれ、それぞれに選択されるべき治療法が異なります。これまでの報告例は、確定できないもの、おそらく、肝斑についてのものが多いように思われます。
161	当帰湯	体力中等度以下から虚弱で、背中に冷感があり、腹部膨満感や腰痛のあるものの次の諸症	体力中等度以下から虚弱で、背中に冷感があり、腹部膨満感や腰痛のあるものの次の諸症	

表2 旧210処方の見直し案における適切な表現に変更すべき効能・効果

No.	漢方処方名	効能・効果、しばり		備考
		変更が必要と考えられる表現	変更後の表現案	
167	女神散 (安栄湯)	血の道症	<p>血の道症(※)</p> <p>※血の道症とは、月経、妊娠、出産、産後、更年期など女性のホルモンの変動に伴って現れる精神不安やいらだちなどの精神神経症状および身体症状のことである</p> <p>(※表記については、効能・効果欄に記載するのではなく、〈効能・効果に関連する注意〉として記載する。)</p>	一律変換③ 一般的ではない用語の説明
176	半夏瀉心湯	発酵性下痢	下痢・軟便	
177	半夏白朮天麻湯	蓄膿症	蓄膿症(副鼻腔炎)	一律変換⑨ 補足説明
178	白虎湯	皮膚のかゆみ	<p>湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ</p>	<p>一律変換④ 「皮膚のかゆみ」は、湿疹・皮膚炎の三大徴候の一つであることから、病態に基づき、「湿疹・皮膚炎」の追加を提案する。本処方では皮膚のかゆみに有用のみならず、その抗炎症作用から、湿疹・皮膚炎に対しても有効であることが知られ、報告も蓄積されています。</p>
179	白虎加桂枝湯	皮膚のかゆみ	<p>湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ</p>	<p>一律変換④ 「皮膚のかゆみ」は、湿疹・皮膚炎の三大徴候の一つであることから、病態に基づき、「湿疹・皮膚炎」の追加を提案する。本処方では皮膚のかゆみに有用のみならず、その抗炎症作用から、湿疹・皮膚炎に対しても有効であることが知られ、報告も蓄積されています。</p>
180	白虎加人参湯	皮膚のかゆみ	<p>湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ</p>	<p>一律変換④ 「皮膚のかゆみ」は、湿疹・皮膚炎の三大徴候の一つであることから、病態に基づき、「湿疹・皮膚炎」の追加を提案する。本処方では皮膚のかゆみに有用のみならず、その抗炎症作用から、湿疹・皮膚炎に対しても有効であることが知られ、報告も蓄積されています。</p>